

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 13 日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320144

研究課題名(和文) 軍事郵便がもたらした体験の共有化と大衆化に関する研究

研究課題名(英文) Research Concerning the Sharing and Mass Popularization of Experiences Brought About by the Military Postal Service

研究代表者

新井 勝紘 (ARAI, KATSUHIRO)

専修大学・文学部・教授

研究者番号：40222707

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,800,000円、(間接経費) 1,740,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、軍事郵便を戦時期の民衆意識を分析するための資料としてとらえ、各地に所蔵される軍事郵便の調査をおこなった。東海地方・関西地方・中国地方・東北地方の調査を中心におこない、各地に所蔵される軍事郵便の一端を明らかにした。また、調査のなかで軍事郵便だけではなく静岡連隊の従軍カメラマンの写真資料からは戦争体験の共有化について分析し、さらに銃後における紙芝居やカルタ、人形、通信省の雑誌などを分析することで、戦争の大衆化が大人から子どもまで拡大・浸透していたことを明らかにした。本研究の成果は論文のほかに、郵政資料館や専修大学において展示をおこなうことで広く公開した。

研究成果の概要(英文)：Viewing the military postal service as a source with which to analyze popular consciousness during the war, this study conducted a survey of military postal service materials stored at various sites throughout the country. Focusing mainly on the Tokai, Kansai, Chugoku, and Tohoku regions, our survey revealed new aspects of military postal service as collected at these sites. This study considered not only military postal service materials, but also analyzed the sharing of war experiences based on the photographs of an army cameraman with the Shizuoka regiment. Moreover, we demonstrated that the massification and popularization of the war expanded to penetrate many levels of society, from adults to children, by analyzing materials from the home-front that included picture-card shows, card games, dolls, and magazines published by the Ministry of Communications. The results of this research was published in articles, but it also made widely available through exhibits.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本史・近現代史

キーワード：メディア 宗教学 戦争 日本史 民衆史 社会学 記憶 郵便

### 1. 研究開始当初の背景

これまで日本近現代史研究では、多様な視点による戦争研究がおこなわれてきた。近年は戦争体験者への聞き取りを通じ、兵士の立場に視点をおいた研究が進んでいる。しかし、戦後 65 年を迎えるなかで聞き取り調査が困難になり、軍事郵便を資料とした戦争研究の必要が迫られている。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、以下の3点に集約される。

(1) 全国各地に残る軍事郵便の実態について調査する。

(2) コミュニケーション・ツールとしての軍事郵便から戦争体験について考察する。

(3) 戦後から現在に至るなかで、翻刻・刊行された軍事郵便の意味を考察する。

軍事郵便は、戦地の兵士と銃後の家族・友人等をつないだ郵便物のことであり、その制度は近代日本において日清戦争から 1946 年の廃止まで続く。よって軍事郵便は各戦争において、個人レベルで兵士の実態を解明できる貴重な史料である。しかし同史料による研究が少ないため、史料の価値が低く、所有する人がいても日の目を見ないか、捨てられてしまう場合さえある。1 はそれを克服するためである。また、同史料は戦場の様子に限らず、家族や故郷への思いがえがかれる。各々の戦争体験における心性は手紙を書く行為に反映される。2 はそれを考察するものである。さらに近年、個人や地域の活動等で軍事郵便が読まれ、翻刻・考察し、刊行されるケースが多い。戦争体験者が少なくなるなかで現在、軍事郵便を読む意味は何かについて考えることは、戦争の記憶の継承を考えるために重要である。そのため 3 を設定した。

### 3. 研究の方法

研究の方法は上記、研究目的と対応するように以下の3つの方法に分類できる。

(1) 軍事郵便の実態調査。

日本各地(本研究の調査地は北海道、東京都、岐阜県、福岡県、三重県、香川県、愛媛県)の軍事郵便が所蔵されていることがわかっている資料館等へ調査に赴き、資料のデータベースを作成する。

(2) 戦地と銃後の戦争体験の考察。

収集した軍事郵便の解読。手紙の内容からやり取りする人びとの人間関係、所在の把握。軍隊の行動、地域における銃後の活動を軍事史、地域史研究の比較から検討する。

手紙における語りの構造を分析し戦争体

験による肉体的・精神的抑圧とは何かを考察する。それによって軍事郵便に表象される戦争の暴力を明らかにする。以上の点を考察し、学術雑誌や研究会で報告する。

(3) 戦後軍事郵便が翻刻・刊行された意味の考察。

近年の軍事郵便の翻刻・刊行という行為を現代史のなかでの位置づけ、戦争の記憶の継承あり方についての考察をする。そのために、個人・団体の数、所在先、刊行物の把握。聞き取り調査により手紙を読んだ背景、翻刻・刊行の動機等を明らかにする。他の著作との比較検討をする。

### 4. 研究成果

研究の目的を達成するために現地調査や資料収集、研究団体との連携、研究成果の公開をおこなった。以下、各年度の成果を具体的に述べる。

(1) 2011 年度の成果。

研究会議を 2 回開催した。2011 年 7 月 8 日には南山大学宗教文化研究所にて、今回の科研全体および今年度の調査計画を議論し、確認した。2012 年 3 月 10 日には小野寺拓也氏による「野戦郵便からみる「ふつうのドイツ兵」 戦友意識と「男らしさ」」のタイトルで研究報告を受けて議論を行い、ドイツ兵士の手紙から読みとれる兵士の体験や意識だけでなく、ドイツにおける野戦郵便の研究の現状についても見識を深めることができた。

また、郵便研究の拠点ともいえる逓信総合博物館(郵政資料館)とも連携し、同館所蔵の資料である『逓信の知識』『大逓信』を調査・研究し、その成果が『郵政資料館研究紀要』第 3 号に掲載された。

現地調査に関しては、2011 年 7 月 8 日～10 日に名古屋・各務原で調査した。ピースあいち、横井庄一記念館では、戦争展示調査と聞き取り調査を行った。木曾川文化史料館では、当資料館の所蔵する軍事郵便や軍事郵便を扱った紙芝居、カルタなどの資料を調査・撮影した。なお、当館での調査の様子は、2011 年 8 月 17 日に MBC(南日本放送)の情報番組「どーんと鹿児島」において、特集「戦地からの手紙～軍事郵便が伝えるメッセージ～」に放送された。その他、岐阜県陸軍墓地・手力雄神社・愛知県護国神社では、戦争記念碑の調査・撮影を行った。2011 年 9 月 18 日 国立歴史民俗博物館にて調査した。国立歴史民俗博物館の近代と現代の展示から、日本のナショナル・ミュージアムにおいて、戦争やその体験がどのように伝えられているのか、軍事郵便が展示資料として活用されているのかを調査した。2012 年 1 月 22・23 日 明石・神戸にて調査した。明石市の軍事郵便保存会にて同会所蔵の軍事郵便関係資料の撮影・聞

き取り調査を行い、保存会の所蔵する軍事郵便の状況や分類の仕方、また保存会の活動などについての情報を得た。兵庫県神戸護国神社では、境内の戦争記念碑の調査・撮影を行った。

(2) 2012年度の成果。

研究成果の発表として『専修史学』第53号(2012年11月発行)において「軍事郵便特集」が生まれ、論文3点、史料紹介2点が掲載された。また、郵便研究の拠点ともいえる逓信総合博物館(ていぱーく)とも連携し、研究を進めた。8月1日から31日にかけて行われた同館主催の企画展「軍事郵便展 戦地からの便り」では、11日から31日の第二期展示において、これまでに蒐集した軍事郵便関係資料を出展し、その模様は読売新聞(8月29日朝刊)の記事にて紹介された。さらに、同館が戦時下に展示活動で軍事郵便とどのように関わったのかも調査を行い、その成果が『郵政資料館研究紀要』第4号(2013年3月発行)に掲載された。

現地調査としては、2012年5月27日~28日に広島で調査した。広島平和記念資料館においては、当館での戦争展示を見学した。さらに、竹本真希子氏(広島市立大学広島平和研究所専任研究員)による案内のもと、資料館周辺の戦争関連遺跡や記念碑などを調査した。広島市立大学広島平和研究所と広島県立図書館においては、所蔵している軍事郵便関係資料の調査・写真撮影、複写などを行った。さらに、調査後には竹本氏から広島在住の郵便資料収集家である秋信隆氏にコンタクトをとってもらい、秋信氏より貴重な軍事郵便関係資料を寄贈していただいた。2013年3月25日~27日出雲・松江で調査した。『戦場ヨリ父ノ便り』を自費出版にて発行した周藤征一氏を訪問し、同氏が所蔵している軍事郵便関係資料の撮影・聞き取り調査を行った。硫黄島の戦いで戦死した父の軍事郵便を翻刻し・出版した経緯や動機、さらに慰霊への取り組みなど、同氏の意見も含め貴重な証言を得ることができた。島根県立図書館においては、当館の所蔵する軍事郵便資料の複写を行った。松江護国神社においては、境内の戦争祈念碑の調査・撮影を行った。

(3) 2013年度の成果。

研究成果の公開として、2013年11月に専修大学サテライトキャンパスにて「柳田芙美緒写真展」を行った。展示では軍事郵便や写真を展示したが、戦場における写真は帰還後には戦地の情報を伝えるものとして重要な意味をもつことがわかった。

現地調査としては、2014年3月24~26日に仙台・白石市にて調査した。白石市では人形の蔵を調査し、軍事郵便だけではなく、戦時下における子どもの遊ぶ兵隊や従軍看護師の人形が多数あることを把握し、写真撮影を行った。宮城県護国神社では戦争記念碑の

調査・撮影を行った。また、仙台市歴史民俗資料館では戦争展示を見学し、戦争やその体験がどのように伝えられているのか、軍事郵便が展示資料としてどのように活用されているのかを調査した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

新井勝紘、試論・戦場における兵士の“性”と性意識 「慰安所」・「慰安婦」をめぐる、専修大学人文科学研究年報、査読無、268号、2014年、1~17頁

新井勝紘、NHK 職員の軍事郵便(その一) 福岡孝成と作家・林芙美子、『隣人』、査読無、26号、2013年、160~169頁

粟津賢太、Rituals of Silence: The Shaping of Memorial Services in Wartime and Postwar Japan、Bulletin of the Nanzan Institute for Religion & Culture、査読有、37号、2013年、52~63頁

新井勝紘・後藤康行、特集にあたって、専修史学、査読有、53号、2012年、1~3頁

粟津賢太、現代における Blood and Soil 畔上直樹における『宗教ナショナリズム』の位置づけについて、研究所報(南山宗教文化研究所編)、査読無、22号、2012年、21~28頁

粟津賢太、書評・安丸良夫・喜安朗(編)『戦後知の可能性 歴史・宗教・民衆』、『宗教研究』、査読無、85巻370号、2011年、127~134頁

〔学会発表〕(計5件)

粟津賢太、戦没者慰霊研究の展開と近年の動向、名古屋宗教社会学研究会、2014年2月25日、南山宗教文化研究所

粟津賢太、ポイエティックとしての戦争遺物・戦死者表象 「モノ」に突き動かされる人々、「トラウマ経験と記憶の組織化をめぐる領域横断的研究」研究会、2013年6月17日、京都大学人文科学研究所

粟津賢太、Rituals of Silence: The Shaping of Memorial Services in Wartime and Postwar Japan、International Conference: The World War and Religion、2012年12月1日、フロリダ州立大学

粟津賢太、コメント・沖縄戦死者の現在 複

数の文脈から考える、復帰 40 年 沖縄国際シンポジウム これまでの沖縄学、これからの沖縄学、2012 年 3 月 30 日、早稲田大学国際会議場

粟津賢太、現代における Blood and Soil : 畔上直樹における「宗教ナショナリズム」の位置づけについて、南山宗教文化研究所研究会、2011 年 11 月 16 日、南山宗教文化研究所

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

新井 勝紘 (ARAI KATSUHIRO)

専修大学・文学部・教授

研究者番号：40222707

### (2) 研究分担者

粟津 賢太 (AWAZU KENTA)

南山大学・付置研究所・研究員

研究者番号：30558911

西村 明 (NISHIMURA AKIRA)

東京大学・人文社会系研究科・准教授

研究者番号：00381145